

日本学術会議

若手アカデミー(第24期・第12回)国際分科会 議事要旨

日時：令和2年3月6日(金) 14:00～16:00

会場：外務省

参加者：

国際分科会：新福、岸村、松中、馬奈木、田中、安田、西嶋、寺田、中西(スカイプ)

外務省：岸輝雄(外務大臣科学技術顧問)、狩野光伸(外務大臣次席科学技術顧問)

小林敏明(軍縮不拡散・科学部国際科学協力室長)

1. 参加者から自己紹介と自身と科学技術外交との関連性について発言した。
2. 岸村若手アカデミー代表から若手アカデミーの紹介を行った。
3. 外務省から、外務大臣科学技術顧問制度とその問題意識について説明があった。科学技術顧問による4年半のこれまでの活動の成果と今後の課題が紹介され、課題解決のために必要なアクションの議論へとつなげられた。岸顧問から、今後のアクションプランの重要性を指摘した上で、重要な事項として、学术界との協同・連携の可能性の検討、科学技術外交に関する人材育成やネットワークの強化、リサーチインテグリティへの対応等を挙げた。
4. 以上をふまえ、今後のアクションが議論され、例えば、短期的な事項として、緊急事態(例えば感染症流行など)への対応に関するフォローアップ、シミュレーション、ケーススタディからの教訓の整理、若手アカデミーとシニアアカデミー及び各学会との連携の深化など、長期的な事項としては、関係機関と研究者との知見共有、アジア地域における科学技術助言・提言・対話などが提示された。

以上